

CONTENTS

● 第21回NAMMビジネスツアー報告	1~4
● MIDI規格委員会 FME-CI WG報告	5~6
● MIDI検定試験実施結果報告	7
● AMEI会員名簿・第7回通常総会議事録の開示について	8

第21回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



今年のNAMM SHOWは、2018年1月25日～1月28日の期間で、例年同様アナハイム・コンベンションセンターにて開催されました。NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、115,085人と、今年もまた前年（106,928人）を上回り、総出展者数も2,000社と去年の1,779社を上回り、過去最高を今年もまた更新。会場もANAHEIM CONVENTION CENTER North HALLが完成し音響機器やDAW系ソフトのブースが集約され、去年より回りがやすく、整理された印象を受けました。今年も初日朝から入場待ちの列が並ぶ中、いつもどおりAMEIツアーメンバーはヤマハ会場のあるマリオットホテル内の比較的いつもすいている入場チケット交換所にてNAMMバッジをゲットし、各自会場へ。今年は会場入口の通路壁面側にMIDI機器関連の展示が並び、ユーロラック/モジュラーシンセも健在で、MIDIコントローラー等も、少しずつ多機能化と共に、定着してきた印象を受けました。MIDI規格委員会主催の第21回NAMMビジネスツアーも、昨年に続き今年も11名の参加を得て、NAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月24日出発～1月30日帰国のスケジュールにて実施することができました。



NAMMビジネスツアー

今年のNAMMビジネスツアーも、昨年同様11名の参加メンバーを得て、NAMMショーの一日前にロサンゼルスに着き、空港からチャーターバスでロサンゼルス市内の観光と買い物、夕方アナハイムへ到着するという予定で実施しました。今年のロサンゼルス空港は予想に反し、自動入国審査端末を使わなくても、1時間もかからず全員集合。成田空港でのミーティングでは2〜3時間はかかるので、と説明していたので、拍子抜けのスタートでした。

今回の観光も、通関で時間がかかることを想定し、ファーマーズマーケットで昼食をとり、定番のギターセンター、ドルビー・シアター、チャイニーズシアターめぐりと手堅く行く予定でしたが、結局アナハイムへ向うハイウェイの渋滞等で、スムーズに移動は出来たのですが、アナハイムディズニーランドホテルへ到着後、いつもと同じ位の時間にダウントウンディズニーでちょっと遅めの夕食となりました。



成田空港にて 2018NAMMツアー記念撮影



ダウントウンディズニーにて夕食



AMEI NAMM ツアーに参加して

クリムゾンテクノロジー株式会社 二重作 知寛

弊社は代表がMIDI規格委員長を努めていることもあり、NAMMツアーには基本的に毎年参加しておりますが、私個人としてはNAMMにもNAMMツアーにも初参加でした。

出発の数日前に関東で大雪が降り、アメリカでも東部で記録的な大寒波に見舞われたりと天候に不安がありましたが、特に問題なく日本を出発でき、カリフォルニアに滞在中は毎日好天に恵まれました。事前に聞いていた入国審査での時間待ちも、時期の関係かシステムが改善されたためかは分かりませんが、今年は1時間もかからずに通過でき、ロサンゼルスへの渋滞も身動きがとれないほど酷かったわけでもなく、工程は全体的にスムーズに終えられたかと思えます。

到着初日はロサンゼルス観光で何箇所か回りましたが、個人的な旅行ではなかなか訪れる機会がないであろう場所が多く、なかなか興味深いものでした。ギターセンターの有名ミュージシャンの手形やギターの品揃えもそうですが、ファーマーズ・マーケットの開放感やチャイニーズ・シアターの賑わいも一見の価値があると思います。

2日目からはいよいよ本来の目的であるNAMMへの参加で、弊社はMMAのブースの一部を借りての小規模な出展でしたが、人種や性別問わず、大勢の方に訪問頂きました。日本での展示会と比べると、やはり多様性が格段に高く、アメリカという国の裾野の広さ、国際的な展示会のあり方というものを考えさせられます。反

面、手荷物検査も日本のそれより大分厳しく、銃社会の側面を感じました。

弊社スタッフは私一人(と代表)だけでしたので、開催中はほぼ弊社ブースにいましたが、合間に会場の2/3ほどを見て歩きました。ブースが大きく目立った演出をしているのは、もちろん大手企業や有名企業がほとんどでしたが、個人的に使用している小規模なデベロッパー等もブースを出しており、それらを訪ねられる事もNAMMの魅力の一つと言えます。(海外の小規模な会社が、イベントのために日本までわざわざ来て出展するというのは、あまり現実的ではありませんので…) また、スペースもジャンルによって特色があり、ギターやドラムのメーカーが集まるスペースでは皆ラウドに楽器をかき鳴らし、DJ機器メーカーが集まるスペースは視覚的にも派手な演出を、一方ピアノメーカーの集まるスペースは、まるで販売会場のような落ち着いた雰囲気と、世界最大規模の楽器ショーらしい多様性を見て取れます。

色々とはありましたが、NAMMでの出展は無事に終えられ、トラブルもなく帰国することが出来ました。NAMMでブースに訪問頂いた方から様々な意見を頂けたり、他社からの参加者の皆様と色々お話をさせて頂いたり、参加して得たものは多かったと感じています。AMEI関係者、および参加者の皆様、ありがとうございました。

AMEI/MMA ミーティング報告

MIDI 規格委員会委員長 飛河 和生

MIDI規格委員会では、1月24日から1月30日にかけてNAMMツアー（米国アナハイム）を今年も行い、AMEI・MMA間の国際会議開催やMMA総会に参加しました。今回のツアー参加者は昨年同様11名となり、無事にツアーを終え帰国しました。初日の夜はツアー成功を祈って、ダウントウンディズニーのレストランで夕食会を行いました。初めての米国滞在という方もいらっしゃって、様々な海外出張のエピソードなどの情報交換をしました。楽器メーカーの方は普段は社内の方々としか話す機会がないことが多いと思いますが、楽器業界の各企業の方々と異国の地で食事をしながら意見交換できるのは、このツアーの大きなメリットだと思います。そして翌1月25日からNAMMショーがスタートし、今年は建物が増えて会場が非常に大きくなり、昨年よりもさらに活気があったように思います。展示会場にはMMA主催ブースも置かれ、MIDIの応用紹介と言うことで、日本からも3社の参加がありました。MMAブースは毎年参加企業が増えていて、MIDI規格のアピールに役立っています。

1月27日（土）は、毎年恒例のAMEIとMMA間でのオフィシャル・ミーティングが開かれ、相互報告ならびに意見交換が行われました。例年は、AMEI、MMAともに応用面でのローカルな規格提案が多いのですが、今回は将来に向けたFME-CI (Future MIDI Extension Capability Inquiry) の議論が中心ということもあり、全体的に大きな未来への方向性に基づいた活発な議論が行われました。今年度は、MIDI規格委員会としても、電子音楽の将来に向けてMIDI of Things (MoT) というスローガンのもとに活動していきたいと考えており、



Joint MMA/AMEI Meeting

メーカーフェアなど自作ホビーとしてMIDIや電子音楽を楽しんでいる方々や、個人やコミュニティなどでMIDIや音のアプリを開発されている方々など、多くの方々を巻き込んだ大きな流れになることに期待しています。そのために、新たな形でのAMEI会員の獲得を目指し、今までにないID登録によるAMEI参加制度の実現も目指しています。現在、ワーキンググループの設置に向けて取り組んでいるところです。会員企業の方々には、この新しい活動に、ぜひご参加頂ければ幸いです。

そして、1月28日（日）午前はMMA総会が行われ、AMEIメンバーはオブザーバーとして参加し、長谷川会長にもご参加いただきました。今年の総会はマリOTTホテルのグランド・ボールルームGからルームKまでを使い、いつもよりも大きなスペースで行われました。MMAのボードメンバー（エグゼクティブボードならびにテクニカルボード）選挙は、従来の賛成反対の意志表明による方法から、投票用紙により行う方法に変更されました。MIDI規格審議では、AMEI提案の、従来MIDI対応機器と互換性を持たせつつ、将来の高速転送や拡張フォーマットに対応できるMIDI Capability Inquiry (MIDI-CI) がvotingされ、可決しました。このほかにMPE (MIDI Polyphonic Expression) の投票が行われ、可決しました。これらは近いうちにRP/CAとしてサイン取り交わしを行い、成立する予定です。その他の話題としては、TRSプラグ・ジャックをMIDIコネクターとして使用する提案として、3.5mm（ミニプラグ）と2.5mm（ミニミニプラグ）のどちらの使用も認めるが、2.5mmを推奨する提案が出ており、その位置づけ（MIDI規格のDINと同等とするか、あくまでDINを補完するものとするか）の議論を行っています。



MMA総会

日曜の午後はAMEI主催でFME-CIのイメージコンセプトのプレゼンテーションならびにProfile Exchange /Property Exchange等の各楽器メーカー試作機による互換性実現デモを行い、将来のMIDIの世界をアピールしました。世界各国から多数の業界関係者が参加しました。詳細はこのあとの同ワーキンググループの水本リーダーから報告が掲載されていますので、そちらをご覧ください。また、1月29日（月）にFME-CIのWGが開催されました。

今年のNAMMでの会合は、将来のMIDIの世界に向けて、大きなファーストステップを踏み出したと言えると思います。これからも、AMEIの活動のご支援を宜しくお願い致します。



MIDI規格委員会FME-CI WG：水本リーダーによるFME-CIプレゼン

NAMMビジネスツアー

NAMM Show 2018視察

私はNAMM Showへは3年ぶり2度目の視察となりました。社内チームの一環として渡米した前回と違い、今年はAMEI主催のビジネスツアーに参加させていただきました。ありがとうございます。このレポートでは2回の比較を交えつつツアーのようすとNAMMの動向を記していきます。ツアーならではの特徴とメリットについて、先ず挙げられるのは事務的な手続きを一任いただけることです。航空券手配・空港からの現地移動・ホテルの予約と手続き・出入国スケジュールの組立、これらを受け持ってくださいするため、NAMM Showで起きることだけにほぼ集中できることが有難く感じました。今回宿泊したのはDisneyland Hotelで、NAMM会場への徒歩移動は15分程度かかりましたが、道中にセブンイレブンがあって気軽に朝食が調達できるなどの長所があります。アテンドの充実の一方で、中日は完全に自由行動のため、一般的なツアーにありがちな束縛性もありません。そのため現地にてアポイントメントが突然発生するなどに対してもアレンジが効きました。そして、日本からのほかの参加者と同行しお話できる機会でもあります。英語の比較的不得手な私は、専門分野においても日本語がもっともコミュニケーションしやすいですが、「業務的プレッシャーの無い中で楽器・テクノロジーについて社外同業の方と日本語で話せる」機会はまた有難いです。今回は同行者は9名と少人数だったのもありフランクな空気だったと感じました。NAMM本編について、目についたのは、キーボードコントローラー製品の展示の減少です。3年前には「DTM用のお手軽MIDIキーボード」「ソフトシンセを賢くコントロールする」「タブレット/スマホにも使える」が溢れていたのが、今年は皆無に近かったです。大手の支配力が上がり、ブームが整理されてきている状

株式会社コルグ 岡本 達也

況を感じました。シンセサイザーについては大御所メーカーの不参加が見られた(Berlin Superboothの影響でしょうか)一方、DJ機器のメーカー数、製品数には活気が感じられました。アメリカという土地柄、フォーカスされやすかったという背景も考えられますが、実際に業績が良いのだらうというのは、楽器店でも実感しました。AMEIツアーの一環で到着日にLA市内観光があり、Guitar Center店舗を訪れた際、DJ・PA製品に対するスペースの割合や装飾の力の入れ具合にその情勢を見ました。



AMEI NAMM ツアー参加報告

今回が初めてのNAMMショー視察でしたが、AMEIツアーに参加させていただいたことで、航空券やホテル、入場バッジの手配など煩雑な手続きに悩まされることなく、細やかなサポートによる安心感の元、現地での視察に集中することができました。ありがとうございます。私の所属する部署では、業務の性質上NAMMショー参加のチャンスはあまりないのですが、人材育成の一環として？声が掛かり、また同時に、著作権を取り扱うにあたって、楽器・音響機器の市場動向を通して音楽コンテンツの価値を肌で感じておきたいという想いもあり、今回参加させていただきました。NAMMの会場近くには現地法人もあるため、現法の訪問、関係者との情報交換などもあわせて行うことができました。

例年、入国審査に時間がかかるようですが、今年は到着後の入国審査もスムーズに流れ、予定通り、ファーマーズマーケット、ギターセンター、チャイニーズシアターなどを巡りました。ギターセンターでは新しい機種からビンテージものまで、楽器が所狭しと並べられていて、その並べ方はどのメーカーや機種も横並びでユーザーが検討できるような雰囲気を感じました。初日の夜には、参加メンバーの方々と一緒に夕食をとる機会があり、他社の方や出展者として参加される方も意見交換をすることができ、翌日からのNAMMショーを様々な視点で視察することができました。

今年は新たにACC North HALLが追加され、昨年よりスペースが拡大して展示が行われました(North HALLにはPA関係の機器が集められていました)。どのエリアも実際に楽器を手に取って演奏あるいは機器を操作している方で溢れ、その盛り上がりにはまず圧迫されました。また毎年のことのように、ギター市場の賑わいがとても印象的でした。この市場でのプレゼンスを高めることは各メーカーにとっても重要であることを実感しました。また、私自身は楽器が弾けないということもあって、楽器の教習ツール・ソフトなどを中心に見て回りました。演奏者の演奏音を各種センサで取

ヤマハ株式会社 知的財産部 木須 康一郎

得・解析し、手本となる音情報との差分を楽譜などのツールで可視化、自分がどのようにお手本とずれているかを認識できるといった商品の展示が幾つかありました。初学者にはまだハードルが高い印象でしたが、演奏スタイルや動きなどの解析と合わせてフィードバックできると面白いと感じました。NAMM全体の印象としては、純粋に楽器・音響機器としての進化を楽しみに来場している方が多い印象で、ここでの熱気は音楽コンテンツの価値を知る上で、非常に貴重な経験になりました。

帰国日早朝のドタバタについては色々とお迷惑をおかけしました。今回NAMMツアーにてツアー参加者のみなさまとも会話ができたおかげで、非常に勉強になりました。AMEI関係者、ツアー参加者のみなさま、誠にありがとうございました。



NAMM ビジネスツアー報告

MIDI 規格委員会 FME-CI WG (グループリーダー) 水本 浩一

FME-CI (Future MIDI Expansion with Capability Inquiry) は、現在の MIDI をベースにして、機器間のネゴシエーション (MIDI-CI) を定義することで、より高いレベルで楽器の連携や、将来プロトコル拡張、楽器以外の機器と連携 (メディアミックス) も構想 (FME) するフレームワークである。

ネゴシエーションによって機器間で共有される情報として、3つが新たに定義される。Protocol、Profile、Property である。Protocol は、MIDI とは異なる将来のプロトコル、Profile は具体的な楽器の仕様 (GM2 や Organ など)、そして Property は、音色リストや操作子リストといった機器固有の情報、をレポートする。それらの頭文字から 3つの P と称している。

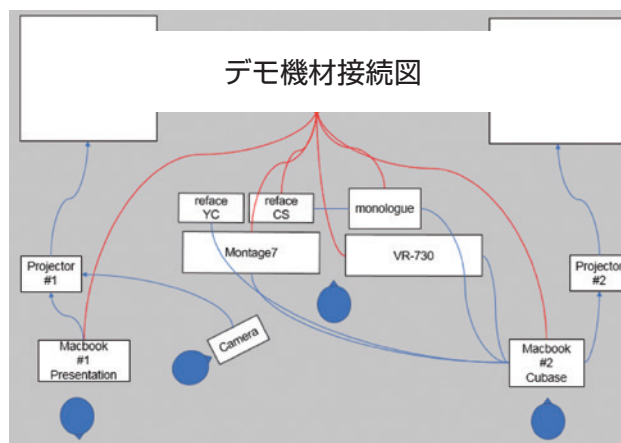
2017 年度の当 WG の活動として、まず、MIDI 1.0 上で、上記をネゴシエーションするプロトコルを定義し、その実例として、Profile と Property の取得と実演を 2018 年 NAMM での MMA 年次総会でデモすることを決めた。

議論は、AMEI の FME-WG と MMA の MIDI-CI WG で並行して行なわれたが、新しい試みとして双方が同一の BBS 上で資料を共有し、随時意見交換していった。かつてメールの往復ベースでやり取りしていたのに比べ、格段に意見交換のスピードが上がった。2017 年 10 月 30 日に規格書のドラフトを仕上げ、AMEI で承認、MMA に送付。2018 年 1 月までに細部の文面を改め、体裁を整え、MMA 年次総会での採決を待つばかりとなった。

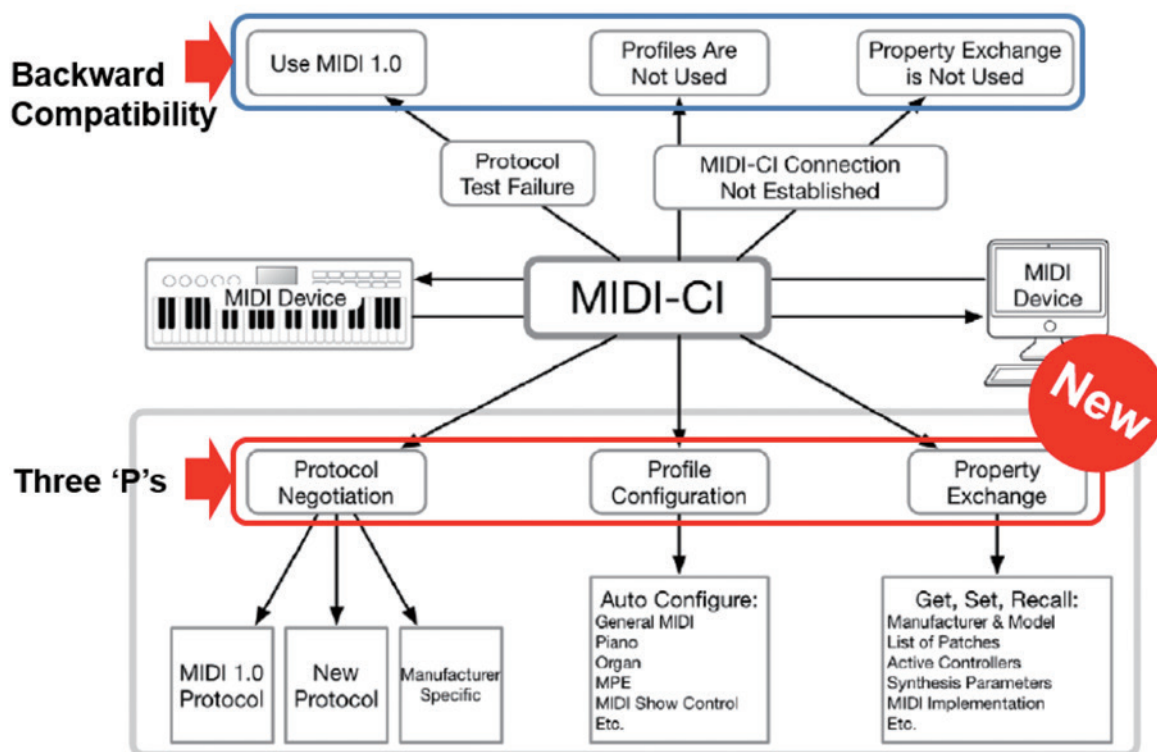
MIDI-CI は AMEI 側から提案した規格である。そこで、AMEI としては、採決にあわせて、背景説明や、実機を使ったデモを現地会場で実施することにした。

デモでは WG 参加の各社製品が、メーカーの枠を越えてつながらなければならない。このために各社が対象の現行製品に MIDI-CI 対応を施し、デモ用の DAW プラグインソフトも用意された。2017 年 12 月の FME-CI WG で相互接続実験を行い無事、相互に認識できることがわかった。

さらに、デモのためには音出しのための PA や実機動作をみせるカメラやスクリーンが必要になる。これらについては



Future MIDI Expansion(FME)



YAMAHA Corporation of America (YCA) に提供いただけることになった。実際にセットアップして、実機を使ったデモの流れも 2018 年 1 月 18 日に関係メーカー担当立会いのもとに YCA にて確認された。

また、MMA から、例年ひとつの部屋で総会を開いているところを、今年は、デモ展示に別室を設けていただき、セットアップやリハに専念できるように計らっていただいた。準備に当たり、さまざまな便宜を図っていただいた関係各位に感謝する。

そして、いよいよ NAMM ショー開幕。MMA 年次総会前日に、AMEI、MMA 直接の顔合わせで、あらためて FME、MIDI-CI について当日のデモについて説明、このときは長谷川 豊 AMEI 会長（当時）、もその意義について発言いただき、AMEI、MMA の意志統一ができた。

年次総会当日は午前のセッションで MIDI-CI 規格化の採決が行なわれ、承認された。同時に承認された MIDI Polyphonic Expression (MPE) と合わせ、進化を続ける MIDI を印象付けることとなった。

いよいよ、午後のセッションで MIDI-CI をデモ。

オープニングとして Future MIDI Expansion のイメージを表したコンセプトムービーを上映（AMEI ホームページにも掲示されている）、場を盛り上げ、将来の可能性を感じさせる出来になっている。プレゼンでは、FME-CI WG の水本が、背景と概要を説明、つづいて AMEI 技術研究部会長（当時）

の柿下氏が他分野の技術とつながっていく MIDI の将来像を描いて見せた。

まず Property Exchange をデモ。Cubase にプラグインしたデモ用ソフトが、USB MIDI で接続したヤマハ、ローランド、コルグのシンセ音色を取得、また実際にリストから音色を呼び出していく。2 千個ほどの音色のリストも 2 秒程度で取り込み、インパクトがある。

さらに実機上のツマミで変化させた音色の状態をプラグイン経由で Cubase に取り込み、いったん終了させ、同時に実機側も電源を入れなおし初期化。その後、双方を立ち上げ直すと、終了直前の状態が再現で来ている。ソフトシンセではできていたことがハードウェアでは各社の独自プロトコルを駆使しないとできなかった。これをひとつのプロトコルでできることが示せた。

続いて Profile Configuration のデモ。ヤマハとローランドのオルガンキーボードを用意、そのままでは互換性はないが、Organ Profile を ON にした後は、お互いに共通のコントロールで動作し、一方の操作子で、もう一方のオルガン音色を操作できるようになっている。また、コルグとヤマハのシンセサイズを直接つなぎ、同様に、シンセ Profile ON 後は相互に音色のコントロールが可能になることを見せた。異なるメーカーの製品が互換性を以ってつながっている構図は新鮮に見えたことだろう。

電子楽器を越えた MIDI の可能性としては、ヤマハより、シンセサイズのコントロールでドローンの飛行を制御しているムービーを提供いただき、上映した。ツマミや鍵盤を“演奏”することで、ドローンの向きや高度が変わる。これも将来のシステムの広がりを感じさせる。

最後に、長谷川会長より Future MIDI Expansion の可能性についてのスピーチをいただき、盛況の内にデモを締めることができた。

今回、AMEI 発の規格ということで、メーカー間の協力を進める貴重な例となった。これを機会に、今後も業界共通の目標への協力体制を築いて行きたい。



Property Exchange Demo

- Get each patch list with one Plug-in App.
- Show the list and call patches actually
- Modify the sound and playback a song
- Get each total recall data list with one App
- Restart DAW and Show the condition was recalled

音色リストの取得

Profile Configuration Demo

- No Compatibility before the organ profile set.
- Set a Organ profile on each instruments
- Confirm the compatibility after the profile on
- Show the profile will work between MI-MI as well

オルガンプロファイルで相互接続



デモ会場の参加者



長谷川会長のスピーチ



MIDI 検定試験実施結果報告

MIDI 検定指導研究委員会 上杉 尚史

平成 29 年度の MIDI 検定は、3 級受験者こそ若干の減少がありました。全体としては 3 級から 1 級を合わせて 772 名となり、ここ 5 年の中で最多の受験者という結果になりました。近年の音楽専門学校減少や MIDI および DAW を扱う音楽スクールの減少に伴い、学校での団体受験者は減っておりますが、一般受験者の増加によってある一定の水準を保っております。ただ、試験協力校での受験が減少した結果、受験希望者数に対して試験会場の受け入れ人数が不足するという問題も出ており、今後は新たな試験会場の確保という課題にも取り組まなくてはなりません。また、1 級試験や 2 級 2 次試験においては、試験実施時に有識者（指導者）による受験説明が必須であるため、試験運営ができる指導者の育成も急務であるといえます。次年度はこういった課題を克服できるように、指導者の育成並びに試験運営の効率化を図りたいと考えております。

MIDI 検定における平成 29 年度の大きなトピックとしては、MIDI 検定 4 級ガイドブックの改定を行った点が挙げられます。「ミュージッククリエイター入門」と題し、最新の音楽制作環境や基礎的な音楽知識を初心者にもわかりやすく解説しました。さらに、巻末には DAW の操作体験に関する情報も記載しており、実践的な音楽制作体験が行えるようになっております。4 級認定者数も 2016 年の 115 名から 183 名へ大きく増加しており、新しいガイドブック導入による効果も徐々に

出ております。この「ミュージッククリエイター入門」は、4 級受験のための教科書だけでなく、音楽制作を勉強するための第一歩として読める内容になっておりますので、会員企業様の研修教材としてもお使いいただければと思います。また、本年 5 月には新たに 21 名の 4 級指導者も加わりましたので、今後の活躍にも期待したいと思います。

※「ミュージッククリエイター入門」

(<http://amei.or.jp/merchan/mc4.html>)



MIDI検定試験結果の推移（国内）

		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	累計
3 級	実施日	第 14 回 2011 12/4	第 15 回 2012 12/2	第 16 回 2013 12/1	第 17 回 2014 12/7	第 18 回 2015 12/6	第 19 回 2016 12/4	第 20 回 2017 12/3	
	受験者数	575	590	514	526	493	512	470	25395
	(内学校)	256	312	298	326	301	242	229	12761
	合格者数	370	339	261	271	308	378	297	17274
	合格率	64.35%	57.46%	50.78%	51.52%	62.47%	73.83%	63.19%	68.02%
2 級 1 次	実施日	第 13 回 2011 12/4	第 14 回 2012 12/2	第 15 回 2013 12/1	第 16 回 2014 12/7	第 17 回 2015 12/6	第 18 回 2016 12/4	第 19 回 2017 12/3	
	受験者数	161	134	124	117	143	139	182	5996
	合格者数	109	84	30	73	91	67	139	2992
	合格率	67.70%	62.69%	24.19%	62.39%	63.64%	48.20%	76.37%	49.90%
2 級 2 次	実施日	第 13 回 2012 2/18 ~ 19 2/25 ~ 26	第 14 回 2013 2/16 ~ 17	第 15 回 2014 2/22 ~ 24	第 16 回 2015 2/21 ~ 23	第 17 回 2016 2/20 ~ 22	第 18 回 2017 2/18 ~ 20	第 19 回 2018 2/24 ~ 26	
	受験者数	88	74	45	78	92	65	88	3495
	合格者数	57	41	21	33	62	39	47	1326
	合格率	64.77%	55.41%	46.67%	42.31%	67.39%	60.00%	53.41%	37.94%
1 級	実施日	第 3 回 2012 1/20 ~ 30	第 4 回 2012 8/10 ~ 20	第 5 回 2013 8/9 ~ 19	第 6 回 2014 8/8 ~ 18	第 7 回 2015 8/7 ~ 17	第 8 回 2016 8/12 ~ 22	第 9 回 2017 8/11 ~ 21	
	受験者数	46	45	43	27	34	43	32	499
	合格者数	19	11	9	14	10	17	9	149
	合格率	41.30%	24.44%	20.93%	51.85%	29.41%	39.53%	28.13%	29.86%
国内受験者合計		870	843	726	748	762	759	772	35385

中国MIDI検定3級試験の推移

級	内容	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	累計
3 級	実施日	第 8 回 2011 12/4	第 9 回 2012 12/16	第 10 回 2013 12/1	第 11 回 2014 12/14	第 12 回 2015 --	第 13 回 2016 12/18	第 14 回 2017 12/10	
	試験会場	北京 上海 南京 杭州 瀋陽 青島	上海 南京	北京 上海 瀋陽 福州 南京 成都 南寧	南京 杭州	今年度は 中止	南京	南京	
		(全国6会場)	(全国2会場)	(全国7会場)	(全国2会場)		(全国1会場)	(全国1会場)	
	受験者数	242	80	243	65		43	36	1744
	合格者数	229	70	240	65		43	36	1531
	合格率	94.63%	87.50%	98.77%	100.00%		100.00%	100.00%	87.79%

平成29年度 MIDI検定試験

MIDI検定とは楽譜の音楽制作環境で必要とされる知識を目的とした検定制度です

第20回3級
第19回2級1次(筆記)

平成29年12月3日(日) 全国一斉
3級試験 1時30分～2時30分
2級1次(筆記)試験 3時～4時30分

平成29年9月4日(月)～10月31日(火)

受験案内

全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI 検定 3 級及び 2 級 1 次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました

【北海道・東北エリア】

クリプトン・フューチャー・メディア・エルム楽器札幌本店・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校・あとリ技芸向上支援協会・札幌新陽高等学校

【関東エリア】

横浜デジタルアーツ専門学校・国立音楽院・ヤマハミュージックジャパン・トート音楽院渋谷・PLV 音楽院・PPC アートサロン・音楽学校 メーザー・ハウス

【中部・近畿エリア】

学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ専門学校・コンピューターミュージッククラブ Dee・トート音楽院梅田・専門学校 ESP エンタテインメント・山本ピアノ教室・リュウケイ ミュージック ネット名古屋・名古屋文理大学・リュウケイ ミュージック ネット金沢・金沢科学技術専門学校

【中国・四国・九州エリア】

広島工業大学専門学校・広島コンピュータ専門学校・専門学校九州ビジュアルアーツ・鹿児島キャリアデザイン専門学校・Oita Sound Creator 協会

東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますと共に平成28年熊本地震、平成29年九州北部大雨災害により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

また、被災地等におきまして、救援・復興支援等の活動に尽力されている方々に深く敬意を表し、併せて皆様の安全と1日も早い復興をお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2018年5月20日現在

あ

- Apple Japan 合同会社

い

- 株式会社インターネット

え

- 株式会社エクシング
- 株式会社エフ・エヌ・エス

か

- カシオ計算機株式会社
- 株式会社河合楽器製作所

く

- クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- クリムゾンテクノロジー株式会社

こ

- 株式会社コルグ

し

- 株式会社シーミュージック
- 学校法人尚美学園
- 株式会社シンクパワー

す

- 株式会社ズーム
- 株式会社鈴木楽器製作所
- 株式会社スリック

た

- 株式会社第一興商

と

- 株式会社東京 MDE
- 株式会社ドワンゴ

な

- 株式会社 nana music

に

- 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・
日本工学院八王子専門学校

は

- パイオニア株式会社
- Pioneer DJ 株式会社

ふ

- 株式会社フェイス
- 株式会社フットレック

や

- ヤマハ株式会社
- 一般財団法人ヤマハ音楽振興会
- 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント
ホールディングス

ろ

- ローランド株式会社
- 〈正会員会社 28 社〉

* 賛助会員

- 中音公司 (中華人民共和国)
- 株式会社博秀工芸
- 株式会社ミュージックトレード社
- 株式会社リットーミュージック
- 〈賛助会員会社 4 社〉

一般社団法人音楽電子事業協会

第7回通常総会議事録の開示について

AMEIホームページ <http://www.amei.or.jp/> の会員専用ページ
会員専用ページへのアクセスはID及びパスワードの入力が必要です。
お忘れの方はE-mailにて対応致します。

● 送付先: amei_info@amei.or.jp

● お名前、E-mail アドレス、会社名、所属、TEL、FAX を記入の上、お申込み下さい。

MIDIはJIS規格/IEC国際標準規格として認定されています。

■ JIS (日本工業規格):

- X 6 0 5 4-1 電子楽器デジタルインターフェース (MIDI) -第1部: 総則
- X 6 0 5 4-2 電子楽器デジタルインターフェース (MIDI) -第2部: プロトコル仕様

■ IEC (国際電気標準会議 International Electrotechnical Commission):

- I E C 6 3 0 3 5 : 2 0 1 7
- MIDI (musical instrument digital interface) specification 1.0 (Abridged Edition, 2015)



AMEI NEWS Vol.65 / 2018.5.31

一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行: 一般社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イトービル 4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人: 水野 滋

編集人: 石黒士郎 (広報委員会)

編集協力: 株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス:

<http://www.amei.or.jp/>

